

必勝を期して



ラグビー部長  
藤盛 達弥

平素よりラグビー後援会の皆様には多方面より篤く温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年、本校ラグビー部は、新型コロナ感染症の影響で三月の選抜大会の中止や夏の招待試合、菅平合宿の中止など強化面で厳しい状態で花園予選会を迎えました。花園予選の決勝で男鹿工業高校に百二対〇で勝利し、一〇〇回を数える記念大会の選手権大会に、二年ぶり六十八回目の出場をすることができました。選手権大会へ向け東北の六県の選手権出場校による強化試合や釜石市での強化合宿でチーム力の強化を計りました。全国レベルの対戦経験の無い状態で花園大会を迎えることに不安が付きまといました。初戦は、東海大付属翔洋高校と対戦しました。最初は、初めての花園ということもあり、全員が緊張して自分たちのラグビーができませんでした。しかし、厳しいディフェンスからターンオーバーし、トライを奪い全員の緊張が解けてトライを重ね六十八対〇で勝利することができました。三十日の二回戦は、西陵高校でした。この試合でもディフェンスで粘りトライにつなげることができまし

た。その後もFWとBKが一体となった全員ラグビーを展開し、四十八対〇で勝利することができました。三回戦は、シード校の大阪朝鮮高級学校でした。前半はディフェンスに苦しめられましたが後半は、フィジカル勝負と速いテンポの切り替えて、トライに持つて行くことができました。前半の失点があり、二十一対三十八で敗れてしまいました。全国大会では、ベスト16という結果で終わってしまいました。しかし、今回の花園における貴重な経験は一人ひとりを大きく成長させてくれました。この経験を胸に秘め、伊東監督に代わり新チームがスタートしました。二月に行われた東北新人大会において、決勝で仙台育英高校を二十八対十九で破り優勝を果たすことができました。三月に行われた全国選抜大会では、一回戦の天理高校では前半十七対〇と早い展開に苦しめられましたが後半に入りテンポ良く展開することができましたが、三十一対十二と実力の差を感じた結果となりました。次の日に大分東明高校と対戦し、自分達の力を出すことができず五十四対十二と惨敗しました。この大会では、フィジカル面の弱さがでた試合となった。七月に行われた七人制の全国大会では、日本航空石川高校と城東高校との対戦で二勝し、カップトーナメントへコマを進めました。一回戦で東福岡高校と対戦し十四対三十五で敗退し、コンソレー

ションへ進み倉敷高校とは十九対十九でトライ数で次戦へと進みました。報徳学園高校とは二十四対三十一と敗戦し、十一位が確定しました。

さて、今年度のチームは男子部員が三年生十一名、二年生十七名、一年生二十名、今年は初の女子マネージャーが一年生に二名入り、総勢五十名で十六回目の花園優勝を目指し、一丸となり取り組んでいきます。

夏期休業中の強化練習では、多数のOBの胸を借りることができ、充実した時間を過ごすことができました。

中央支部新人も終了し、花園予選まで練習できる日数もコロナ感染対策を取りながら、あと数えるほどの日数しかありません。まずは花園予選において必ずや勝利を掴み取り、そして、花園において十六回目の優勝という目標に向かって取り組んでいきます。今日まで多くの保護者や学校関係者の方々に支えられてここまで来ることが出来ました。この思いを忘れることなく大会に臨み、皆様の期待に応えるようチーム一丸となり一つ一つ上り詰めていきます。

最後となりましたが、秋田工業高校ラグビー部の土台となって支えてくださっている後援会の皆様には今後とも変わらぬご支援ご協力、叱咤激励を賜りますようお願い申し上げます。

